

# 年頭のごあいさつ



東京ディスプレイ協同組合 理事長  
田口 徳久

「より参加しやすい  
組合を目指して」

## 謹賀新年

新年おめでとございます。

組合員の皆様におかれましては、明るい新年をお迎えのことと存じます。

昨年の大震災の直後にはいったいどうなってしまうのか、と危惧された日本、そして、我々業界の先行きでしたが、初夏を迎える頃から明るい兆しが見え始め、徐々に大震災以前の状態に戻ってきた、という話を多く聞くようになりました。

しかしながら、その後も、タイの洪水の影響が長引き、欧州の財政危機はその先が定まらず、日本にまでその飛び火が来るのでは…と囁かれる始末です。

とは言うものの、歴史を振り返ってみれば、今のような不透明な時代が多かったのではなかったでしょうか。難題に立ち塞がれる度に賢明な諸先輩方は、知恵を絞り乗り越えてきたからこそ現在があるのだと思います。

今年も、そして、これからも同様に歴史を刻むべく新たな道を探って行くしかないし、それこそ我々に課せられた使命なのでしょう。そして、これを実現するために組合の存在をうまく利用して欲しいと思うのです。皆様のご協力で組合員間のコミュニケーションは年々良くなってきているようです。また、昨年からはさらに活性化するために交流委員会も誕生しました。

今年も皆様が組合活動に参加しやすい環境作りに注力いたしますので、より積極的な参加をよろしく願いいたします。



東デ協 東支部長  
上田大平

年頭にあたりまして、一言、皆様にご挨拶を申し上げます。  
まず、昨年3月11日の大震災・原発事故の被害に遭われた方々へ、心よりのお見舞いを申し上げます。

そして、その日より、日本は大きく変わったと思います。  
巨大な「力」によって全てを覆い尽くすところを目の当たりにして、本当に目の前にある「命」、我々が由って立つところの「根幹」に

ついて、つくづく考えさせられました。  
我々業界のことについて思いを巡らせると、「究極のニーズ」は何なのだろうか、もちろん、日々の競争もある中で、今問われているのは、「つきつめた」ところに踏み込んで、そこからの「出発」を模索していく方法しか存在意義を見出すことが出来ないのでは、と考えます。  
そして、今まで営々と実績を積み重ねてきた当業界の会社の皆様には、突破していく力をお持ちのことと信じています。  
「確信」と日々の「行動」によって乗り越えたところに、新たな活動の場があるものと思います。  
日頃の組合員の方々のご協力に感謝しますとともに、皆様企業の更なるご発展をご祈念申し上げます。



東デ協 西支部長  
福島秀男

新年明けましておめでとございます。  
皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。  
昨年は東日本大震災の発生から様々な問題に直面し、非常に大きな壁が我々の前に立ちはだった1年でありましたが、それでもまたこうして新しい年を迎えることが出来たことに感謝したいと思います。

3月11日に発生した東日本大震災は未だ復興への道のりは遠く、新年を迎えた今も大きな爪痕を残しています。同じく福島第一原発もまた予断を許さぬ状況が続いています。  
震災は多くの命を奪っただけでなく国内外の経済金融市場にも大きな影響を与え、更には米国債の信用格付けが1段階引き下がったことなどから急速に円高が進行し、ここ数年不安定だった世界経済は更に揺れ動いています。

しかしながら、一方では「AFCアジアカップ・カタール大会」での日本代表の優勝や「FIFA女子ワールドカップ」でのなでしこJAPANの優勝など、我々に大きな力と勇気をくれるニュースもありました。  
本当に昨年は色々考えさせられた1年であったと思います。いかなる苦境においても、やはり立ち止まることは許されず、それを乗り越え、その上に立ち前進してゆかなければなりません。  
我々ディスプレイ業界におきましても、アナログ放送の終了による地デジ化などメディア戦線が新たな時代を迎え、最近話題を呼んだ大阪W選挙における維新の会の勝利のような革新の時を迎えた今、若い力を育て、共に一丸となって変革していかなければなりません。  
今年も組合、及び支部の活性化に、ご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。



東デ協 南支部長  
渋谷紀之

新年 明けましておめでとございます  
皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。  
今年こそは、今年こそはという想いは裏腹に昨年3月には東日本大震災という未曾有の災害を私達は経験しました。  
そして、安全を守る為には、想定外があってはならないということを私達は学びました。  
ここ数年当組合ではディスプレイ業の地位向上を目指してまいりましたが、この安全とコン

プライアンス遵守への一丸となった取り組みこそが一流業界への扉を開く一丁目一番地であると改めて感じました。  
支部活動につきましては、引き続き本年も支部の垣根を越えた交流を実現すべく多彩な取り組みを行いたいと思っております  
皆様の温かいご理解、ご支援を心よりお願い申し上げます



東デ協 北支部長  
日下部 肇

新年おめでとございます。  
皆様穏やかな新年をお迎えてはいかがでしょうか。  
昨年は地球自体も、その上に暮らす人類も、永い歴史の中で溜めこんだストレスを一気に噴き出したような年でした。  
世界各地で自然災害が相次ぎ、とりわけ日本は未曾有の大災害に見舞われました。政治や経済においてもパワーバランスが大きく崩れて様々な混乱が発生し、続いています。  
今年はどうな年になるのでしょうか。

私にはよく分かりませんが、世界規模のバランスの矯正ですから、残念ながらそう簡単には収斂しないと思います。しばらくは不安定な時が続くと思います。  
しかしながら日本には巨大なマーケットがあります。経済活動が多少落ち込んでも、日本中が消費活動を一斉に停止するわけではありません。今年も巨大な経済活動が繰り広げられます。  
ただ、消費者の動向変化に注意を払わなければなりません。消費者の欲求はその生活エリアの社会的、文化的熟度によって変遷します。当然産業構造もそれに連れて変化します。日本を含む熟度の高いエリアでは物質的満足から精神的満足を求める傾向が強くなっています。この変化にうまく対応することが大切だと思います。  
そしてまた、今度の災害では日本だけでなく世界中が深い「絆」で結ばれました。人は出会いや連携、コミュニケーションを求める生き物だということが再確認されました。  
今起きている世界規模の大きな変動も、新しいコミュニケーションのカタチを求めているのだ、と考えることもできます。  
我々は人々のコミュニケーションと深く関わっています。コミュニケーションの場を作り、活性化させるプロの業界です。  
人のコミュニケーションに対する本性と、欲求の変化を読み取れば新しいビジネスチャンスもまた広がるのではないのでしょうか。